

平成14年度

全知P連子育て支援

休日・放課後における障害児の地域活動促進事業
「児童・生徒の休日・放課後における余暇の充実のために」
中国・四国ブロックセミナー

平成14年12月6日(金)

香川大学教育学部附属養護学校

1. はじめに

本校は、「人間性豊かな児童・生徒の育成と個々の社会的自立」をめざして、昭和40年4月に香川大学教育学部附属坂出小学校特殊学級「南組」として産声をあげ、昭和50年4月に香川大学教育学部附属養護学校として坂出市青葉町に創設された。それより今年で満27年を迎え、また、本校が昭和53年9月に現在地に新築移転をし、授業を開始してから24年の歳月を重ねてきた。

通学については、学校より歩いて5分の府中駅の利用や自転車による自立通学をしている子どもやスクールバス利用の子どもたちがいる。附養ふれあい祭りで地域の人々との交流や地域の府中小学校や府中幼稚園との交流、また、附属小学校・中学校との交流も行われている。校内の各行事の交流活動を通して地域の本校教育に対する理解や支援体制が整えられてきている。

さて、平成14年度より学校週5日制が完全に実施されているなかで、本校PTA・「育成会」が中心となり学校が休みになる土曜日の過ごし方について考えると共に、親子で楽しめる活動を計画・実践してきた。同時に、学校として子どもたちの将来を見据えて余暇活動の充実についての研究も進めてきている。こうした活動をより充実・活性化させるために、ボランティア活動を保護者の活動・学校の活動に取り込み、同じ場・時間を共有することの意味を見いだしてきつつある。

この全知P連の子育て支援事業を受けるに当たって「休日・放課後における障害児の地域活動促進支援事業」をPTA・育成会と学校が一体となり、ボランティアの受け入れや活動を充実させること、さらにはボランティアの輪が広がっていくことを願って実施してきた。子どもたちが、地域で豊かに生きるために。

2. セミナー実施について

(1) セミナー実施に日程

平成14年12月6日(金) 13:00～16:00

(2) 会場

香川大学教育学部附属養護学校

(3) 参加人数

合計・・・27名

岡山県・・・5名

香川県・・・22名

(4) セミナープログラム

①開会

②育成会活動について

③ボランティア活動について

④情報交換・協議

⑤校内参観

⑥閉会

3. 発表内容・情報交換

(1) 平成14年度実施内容

月 日	曜日	行 事 名	行 事 内 容	場 所
5 / 19	日	春季運動会	カキ氷販売活動をする	学校
6 / 22	土	親子リトミック教室	音楽に合わせて、親子で楽しく活動する	学校 体育館
7 / 20	土	親子陶芸教室	粘土を使い、親子で陶芸作品づくりをする	学校 陶芸室
7 / 28	日	スポーツ大会	カキ氷販売活動をする	学校 体育館
8 / 4	日	府中湖カヌー教室	親子でカヌー体験活動をする	府中湖
10 / 26	土	バーベキュー&ゲーム大会	親子で、ゲームを楽しみ調理体験活動をする	学校 プレイヤード
10 / 27	日	府中湖水のフェスティバル	親子で、自分たちが作った物の販売活動をする	府中湖
11 / 23	土	ふれあい祭り	地域の人たちに対して、販売活動をする	学校
12 / 21	土	親子で脂肪バイバイエアロビ&リトミッククリスマス大会	親子で音楽に合わせて、身体活動を楽しむ	学校 体育館
1 / 18	土	親子で脂肪バイバイエアロビ&リトミック新春大会	親子で音楽に合わせて、身体活動を楽しむ	学校 体育館
2 / 8	土	卒業生とのボーリング大会	在校生の親子と卒業生と一緒に余暇活動をする	坂出中央ボーリング場

(2) 支援活動の養成の方と対象 (資料参照: 別冊)

【養成の方】

(1) 学校の施設利用

- プレイヤード・・・バーベキュー大会 (H12・H14年度) 資料1
- 附養ふれあい祭り (S55~H14年度) 資料2
- 体育館・・・・・・親子スポーツ大会 (H17~H14年度)
- 親子リトミック大会 (H14年度) 資料3
- プール・・・・・・プール開放 (S53~H14年度)
- やまももの家・・・養成講座開催 (H11年度) 資料4

(2) 地域の施設・環境利用

- 国分寺橘ヶ丘公園・・・バーベキュー大会 (H13年度)
- 府中湖・・・・・・府中湖水のフェスティバル
(H11~14年度) 資料5
- カヌー教室 (H11~14年度) 資料6

【養成の対象】

(3) 介護等体験の学生

年間200名の介護等体験の学生が本校を訪れる。本校の教育課程の中での活動と共に子育て支援の活動にも参加してもらいボランティア活動の経験と介護体験後もボランティア活動への意欲を高めることを願っている。

*平成14年度香川大学教育学部学生「介護体験」受け入れ状況 (資料7)

* 「放課後活動」におけるボランティア受け入れ状況 (資料8)

1 保護者の教育力の育成

育成会・親和会を中心として親和会行事と共に育成会が「子育て支援事業」を計画・運営をする (資料9)

2 地域のボランティアティーチャーの協力・・・「放課後活動」として

(資料10)

3 附属間のPTA交流

附属幼稚園・附属小学校・附属中学校の保護者が活動へ参加

○陶芸教室 (資料11)

○そうめん流し

○バーベキュー大会 (資料12)

4 坂出市社会福祉協議会からの参加

(5) ボランティア募集の方法

① 大学との連携

② 地域との連携

③ ホームページへの掲載 (資料13)

- ④ 市役所との連携
- ⑤ 坂出市社会福祉協議会との連携（資料14）

(6) ボランティア支援の手だてとして

- ① ボランティアガイドの作成（資料15）
- ② 保護者の方からボランティアさんへ（サポートガイド）

(7) アンケートより（資料16）・・・アンケートはピックアップして実施

○アンケート回収数

・カヌー教室 4名 ・バーベキュー大会 16名 ・放課後活動 11名 ・ふれあい祭り 46名

○所属 ・坂出市社会協議会 7名 ・大学生 75名

○ボランティアをして困ったこと

・活動の仕方が分からない 12名（21%）
 ・支援の仕方が分からない 43名（77%）
 ・叱り方が分からない 1名（2%）

○ボランティアを何で知りましたか

・大学より 68名（91%）
 ・坂出市社会協議会 7名（9%）

○今後ボランティア活動をしたいですか

・したい 73名（99%）
 ・したくない 1名（1%）

○ボランティア活動をしての感想

- ・ 楽しかったです。活動に参加しているととても自然に楽しむことができました。支援の仕方が難しいと思いました。（カヌー教室）
- ・ 両親、先生方の熱心さに感心する。子どもからつかず離れずの難しさを感じた。今後とも続けていきたいと思う。（バーベキュー大会）
- ・ おとなしい男児を受けもたせてもらいました。困ったことはありませんが、接し方が難しく見ているだけでよいのか心配でした。これからも少しずつ勉強したいと思います。（バーベキュー大会）
- ・ 若いボランティアさんからお話が聞けてよかったです。（バーベキュー大会）
- ・ 始めは子どもの言っていることが分からずとまどったが、最後には分からなかった言葉が何を意味しているか分かってきた。コミュニケーションが多くとれたと思うし楽しかった。（バーベキュー大会）
- ・ 今日保護者の方がたくさんいらっしやったので助かりました。年輩の方の参加もあり地域との交流もあって理解が広がっていてよい活動になっていたと思います。附属小学校の子どもも来られていたので事前の話し合いをしておくに関わりがもっともてたと思います。（バーベキュー大会）

- ・ 養護学校の子どもも附属小学校の子どもも皆元気いっぱいでした。そして笑顔がさわやかでお互いにとっても楽しく過ごせました。自分がついている子どもだけでなく、できるだけ多くの子どもたちとふれあうことができよかったです。(バーベキュー大会)
- ・ 今回2回目の養護学校でのボランティア活動だったが、ゆっくり短い言葉で話しかけると、コミュニケーションがとれることを実感してきた。子どもから手をつないだり、ボール遊びをしている時私に投げさせてくれたり嬉しかったです。無理矢理話をしようとするのではなく、さりげなく側にいれば段々心を開いてくれるんだと思いました。(バーベキュー大会)
- ・ 子どもたちは想像以上に元気で明るかった。色々な活動を通して子どもたちと少しづつ仲良くなれてよかったです。(放課後活動)
- ・ 子どもたちと一緒に過ごすことで色々なことを感じる事ができてすごく楽しかったです。また来たいです。(放課後活動)
- ・ 子どもが素直でかわいかったです。2回目だったので前より子どもと話せたり関わられてよかったです。(放課後活動)

(6) 今後の課題 (各校より出た内容)

○休日・放課後の活動をPTA育成会や学校が中心となって企画・運営を進めてきているが、その活動をボランティア中心の活動にどのように継続しながら広げていったらよいか。

・ グループづくり・活動に魅力があること・活動が定期的にあること

○今後どのように県内の養護学校にボランティア活動を広げていったらよいか。

○活動場所を徐々に学校から地域へと広げていっているが、地域に根ざした活動になるための検討が必要である。

・ ボランティアさんに任せる場面 ・ 生き甲斐につながる活動

○ボランティア活動に参加している方の「支援の仕方が分からない」という声を十分にくみ取って、「ボランティアガイド」や「サポートガイド」等の取り組み以外で簡単に分かりやすい方法を考えていきたい。

○校内だけでなく、社会に目を向けていく必要がある。

○活動の前後に保護者とボランティアとの話し合いがあればよいのではないか。